

## 執筆者紹介

こいけ	たかお	生	本学経済学部准教授
飯田	けんいち	謙一	本研究所研究参与
樋口	ひろみ	博美	本学人間科学部教授
かない	まさゆき	雅之	本学人間科学部教授
まちだ	としひこ	俊彦	本学経済学部教授
みや	さきてる	寄晃臣	本学経済学部教授
かじ	はらみつ	梶原勝美	本学商学部教授
むら	かみしゅん	村上俊介	本学経済学部教授、本研究所所長
ひろ	ひろこ	瀬裕子	本学法学部教授
さとう	こういちろう	佐藤康一郎	本学経営学部准教授
すず	なみ	鈴木奈穂美	本学経済学部准教授
いしかわ	かずお	石川和男	本学商学部教授

## 〈編集後記〉

幼少時西宮市の鳴尾で育ち、小学校の3階の教室からは天気の良い日など、淡路島から遙か四国を望むことができた。しかし、四国には縁がなく、行ってみたいとも行くことはないだろうなと子ども心に思っていた。ところが、その憧れの地にこの3年間だけでも6回も訪れている。うち3回は社研の実態調査である。2011年9月に愛媛県内子町、松前町、今治市、西条市、砥部町を訪れ、2012年2月には香川県小豆島町、高松市、丸亀市、直島町を訪ね、本誌584号と587・588合併号にその特集が組まれている。そして本年2月の実態調査については本号でその特集が組まれたのである。内外含めて、3年連続で同じ地域を調査地に選んだことは、専大社研の歴史の中では他に例はないであろう。この間社研事務局では四国出身者がいたわけではなく、四国が選ばれたのは少子高齢化の先進地域で、少子高齢化の下での活力ある地域づくりの先駆けとして四国の各地域、事業体の営みを学んでおきたいというのがその大きな目的となったと考えている。しかし振り返ってみると、まだ高知県には行っておらず、四国調査が今回で終わりというわけでもなさそうに思われるが、どうであろう。高知県の縁の方からお叱りを受けないためにも。

(宮寄晃臣)

---

2013年8月20日発行

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 村上俊介

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561

---